

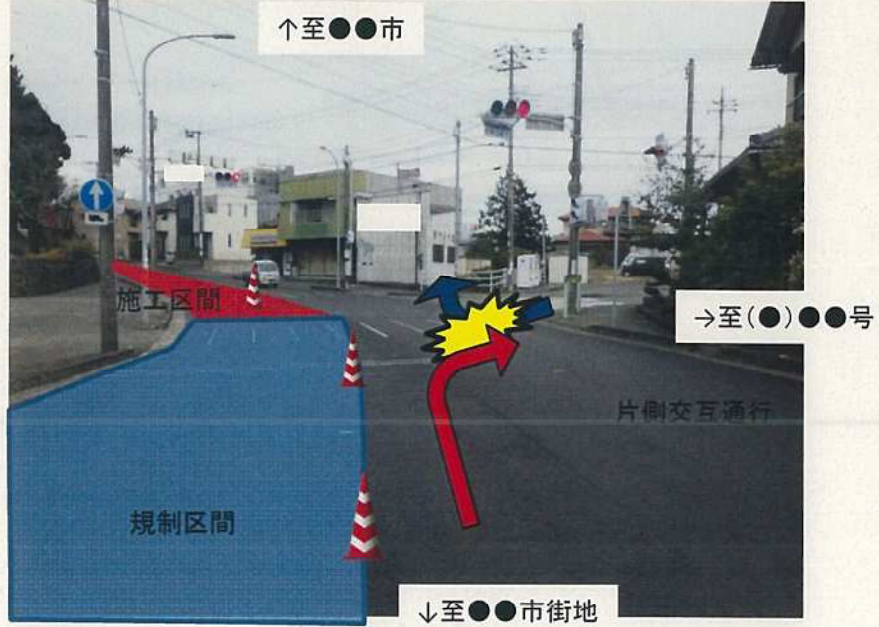
事故周知・発生防止[令和4年度発生事例]

災害の種類	交通事故	工事区分	舗装工事
事故内容	交通規制内での通行車両事故	性別・年齢	—
被災状況	通行車両の物損	被災者 職業	—
<p>[災害の概要]</p> <p>□現場の状況： 交通誘導警備員の誘導のもと工事規制区間内に進入した車両が信号を無視して交差点内に進入し、●●道から●●道に右折してきた車両との接触事故。</p> <p>□事故の概要： (●)●●●●線を●●市街地から●●市方面へ走行していた軽トラックが、青信号を確認した交通誘導警備員の誘導に従い、工事規制区間内へ進入したところ、交差点の信号が赤に変わったが、これを無視して交差点に進入し、●●道を右折した。また、●●道で待機していた軽自動車は、信号が赤から青に変わったのを確認した交通誘導警備員の誘導により、交差点を右折したところ、信号無視をした軽トラックと衝突した。</p> <p>□安全対策の有無： 有 交通誘導警備員を配置した片側交互通行</p> <p>[再発防止策]</p> <p>□問題点： ①支障物等により交通誘導警備員が交差点内を視認できない状況下であったが、信号現示に従った交通誘導をする交通誘導警備員を交差点内に配置していなかったこと。 ②信号現示であると認識しずらく、あたかも誘導が優先であると思わせてしまったこと。 ③交差点の停止線が仮ラインテープだったため、見えづかったこと。 (その他)現場代理人は、交通誘導警備員から事故の一報を受けたが、交通事故(物損事故)と判断し、事故発生後、現場代理人から担当監督員への連絡が遅れたこと。</p> <p>□防止対策： ①工事規制区間内に交通誘導警備員が交差点内を視認できない交差点が含まれる場合は、信号現示に従う交通誘導をする交通誘導警備員を配置する。 ②信号現示であることが認識できるように、交差点内に「信号厳守」の看板を設置する。 ③交差点内の停止線の位置が明確になるよう、「停止位置」の看板を設置するとともに、仮ラインテープを枠のみの設置から塗りつぶしに変更する。 (その他)現場に関連する事故が発生した場合は、監督員へ事故発生後直ちに連絡するよう社内教育を徹底する。加えて、現場代理人の不在時についても緊急連絡できるようバックアップ体制を確保する。</p> <p>□事故の状況がわかる写真または図面：</p> <p>↑至 (●)●●号 青信号 停止位置 ●道 住宅 ←至 ●●市 →至 ●●市街地 ●●●●線 赤信号 停止位置</p> <p>凡例 青：規制区間 赤：施工区間及び規制区間</p>			

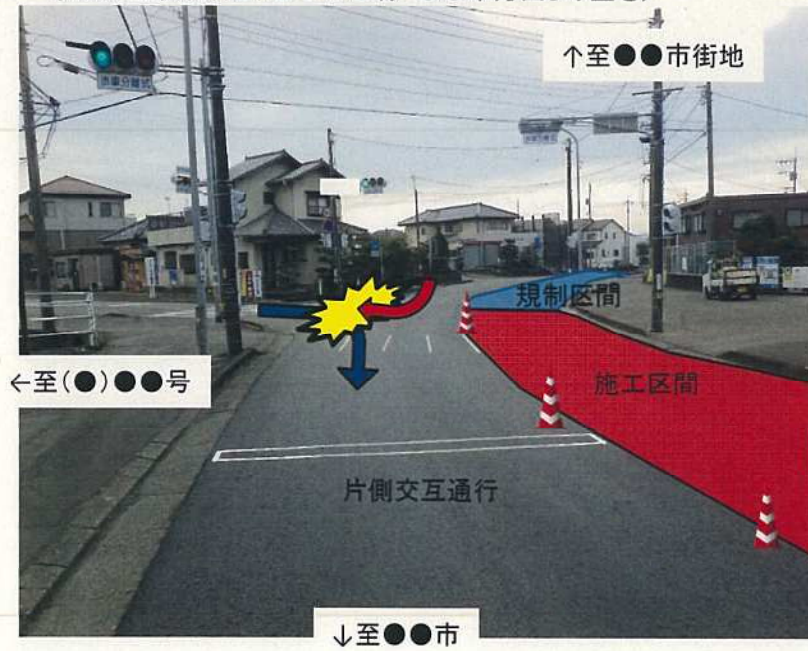
事故周知・発生防止[令和4年度発生事例]

□事故の状況がわかる写真または図面:

事故発生状況((●)●●●●●線・●●市街地方面より望む)



事故発生状況((●)●●●●●線・●●市方面より望む)

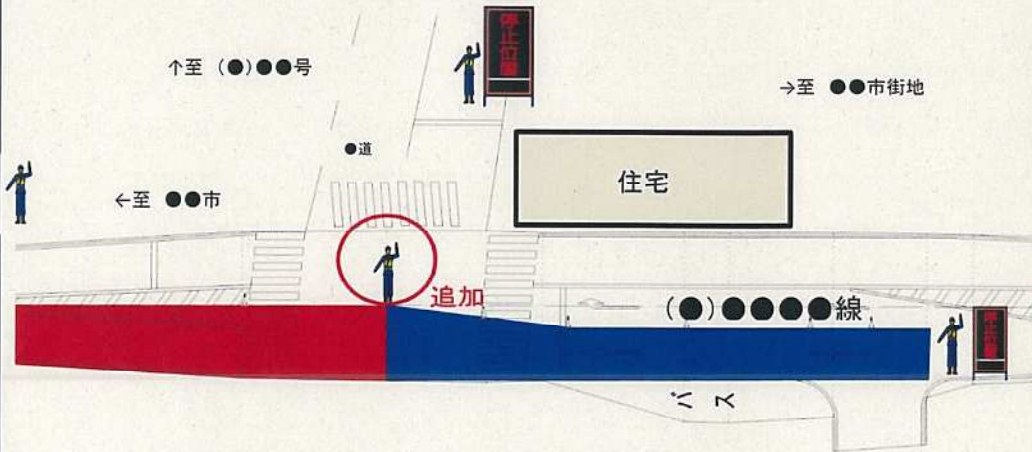


事故周知・発生防止[令和4年度発生事例]

□事故の状況がわかる写真または図面:

防止対策

①工事規制区間内に交通誘導警備員が交差点内を視認できない交差点が含まれる場合は、信号現示に従う交通誘導をする交通誘導警備員を配置する。



②信号現示であることが認識できるように、交差点内に「信号機厳守」の看板を設置する。

③交差点内の停止線の位置が明確になるよう、「停止位置」の看板を設置するとともに、仮ラインテープを枠のみの設置から塗りつぶしに変更する。



仮停止線拡大写真



事故周知・発生防止[令和4年度発生事例]

事故の状況がわかる写真または図面:

防止対策

(その他)現場に関連する事故が発生した場合は、監督員へ事故発生後直ちに連絡するよう社内教育を徹底する。加えて、現場代理人の不在時についても緊急連絡できるようバックアップ体制を確保する。